

評価基準 (評価はAが高く、Cが低いということになります)

コンクリート強度

建物の構造部材であるコンクリートについて強度試験を行い、原設計における設計基準強度との比較により分類する。コンクリートコアは、各工期ごとに各階1本ずつのコアを採取して行い、それぞれの圧縮強度試験結果の平均値の最小値を圧縮強度試験値としてもちいる。

分類	A	B	C
圧縮試験 / 設計基準強度	1.25以上	A・C以外	1.0以下

老朽化

柱、梁等の主要構造部材の老朽化の状況(鉄筋腐食度、ひび割れ等)について調査し、その結果により分類する。

分類	A	B	C
程度	鉄筋腐食度及びひび割れ共に評価1	A・C以外	鉄筋腐食度及びひび割れ共に評価3

鉄筋腐食度

評価1 特に問題なし

評価2 錆汁あり

評価3 露出鉄筋又は膨張性発錆あり

ひび割れ

評価1 ほとんど認められない

評価2 ヘアークラック又は1m未満のクラックあり

評価3 1mm以上のクラックあり

プラン

建物のはり間方向及び桁行方向の構造架構について調査し、その結果にもとづき分類する

分類	A	B	C
はり間スパン数	1スパン架構が無かつ スパン長がすべて 4.5m以下	A・C以外	半数以上が1スパン架構 かつ スパン長がすべて 6m以上
桁行スパン長			

耐震壁の配置

耐震壁の配置を調査し、その結果により分類する。

分類	A	B	C
下階壁抜け架構	無かつ 9m以下かつ両妻壁 4あり	A・C以外	有かつ 12m以上または妻 壁なし
はり間壁の間隔 及び 妻壁の有無			

想定震度

建物が立地している地域の想定震度を調査し、その結果にもとづき分類する。

分類	A	B	C
震度	震度 強以下	震度 弱	震度 強以上